広島大学心理学研究　第2号　2002

幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル
—同性仲間と異性仲間からの評価—

中台佐喜子・金山元春・前田健一

Popularity and social skills in preschooler's peer group:
Comparison between same-sex and opposite-sex peer nominations

Sakiko Nakadai , Motoharu Kanayama and Kenichi Maeda

本研究では，76名の年長幼児を対象に，仲間集団における同性仲間および異性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係について男女別に検討した．相関分析の結果，社会的スキルの高さは男児では同性仲間からの人気度と，女児では異性仲間からの人気度と関係していることがわかった．この結果を指名する方の立場から整理してみると，男児は相手の性にかかわらず社会的スキルに優れているかどうかが遊び仲間の選択に影響するのに対して，女児は相手が同性仲間であっても異性仲間であっても男児ほど社会的スキルを選択の基準としていないことが示唆された．本研究の結果は，幼児の仲間集団における人気度と社会的スキルとの関係を検討する際に性別の要因を考慮することの重要性を示している．

キーワード：幼児，人気度，社会的スキル，同性仲間，異性仲間

問題と目的

幼児期においてソシオメトリック・テストによって測定された仲間集団における人気度は，同時期の社会的適応状態と関係するだけでなく，児童期以降にまで至る社会的な適応状態を予測する重要な指標として知られている．例えば，Li（1985）は，幼児期の仲間集団における人気度と後の社会的適応との関連を検討している．小学3年生の時点における教師の評定によれば，幼児期に仲間から拒否されていた子どもは，仲間から人気があった子どもや平均的な子どもよりも，小学校で不適応を示す割合が高かった．

幼児の人気度を扱った研究の多くは，人気度に影響を及ぼす要因のうち，最も重要な要因として，個人の社会的行動特徴に焦点を当てている．すなわち，こうした研究は，個人の社会的スキルが仲間集団における人気度を左右すると仮定して，そのスキルを特定しようとしている．例えば，前田（2001）は，仲間から人気のある幼児は教師からも仲間からも社交性が高いと評定されるのに対して，仲間から拒否されている幼児は社交性が低く，攻撃性が高いと評定されることを明らかにした．

この領域に関しては，すでに一定の研究成果が蓄積され，そのほとんどにおいて社会的スキルに優れる幼児ほど仲間集団における人気度が高いという結論に至っている（Coie, Dodge & Kupersmidt, 1990）.

しかし従来の研究は，仲間集団における人気度を測るのに，同性仲間からの人気度のみを扱っているか,同性仲間からの人気度と異性仲間からの人気度を区別せずに処理している.これに対して，Mostow , Izard , Fine & Trentacosta（2002）は，小学１，２年生を対象に，仲間からの人気度を同性仲間からの人気度と異性仲間からの人気度に分類して，それぞれと社会的スキルとの関係を検討している．その結果，教師によって評定された社会的スキルは，同性仲間と異性仲間のどちらの人気度も予測していたが，異性仲間からの人気度の方がより強く関係していた.

同様に Chimienti（1997）は，小学３年生と５年生を対象として，同性仲間からの人気度と異性仲間からの人気度をそれぞれ測定し，仲間による社会的行動の評価との関係を検討している．その結果，向社会的行動は，同性仲間からの人気度や異性仲間からの人気度と強い正相関を示したが，異性仲間からの人気度の方がより強く関係していた．また，反社会的行動は，同性仲間からの人気度と負の相関を示したのに対して，引っ込み思案行動は異性仲間からの人気度と正相関を示した.

こうした研究結果は，同性仲間からの人気度と異性仲間からの人気度が，個人の社会的行動特徴とそれぞれ異なって関係することを示唆している．ただし，Mostow et al.（2002）と Chimienti（1997）の研究は児童を対象にしたものであり，これらの関係について幼児を対象に検討した研究はみられない．幼児の仲間集団における人気度と社会的スキルの関係についても同性仲間からの人気度に限定せず,異性仲間からの人気度との関係を検討することで新たな知見を見出すことができるだろう．また彼らの研究は，同性仲間と異性仲間からの人気度を扱っているにもかかわらず，男女を区別した分析を行っていない．Hayden-Thomas, Rubin & Hymel（1987）は，幼児から小学３年生を対象とした研究を実施し，女児が男児よりも異性仲間をネガティブに評価することを明らかにしている．すなわち，男児が女児を評価する場合よりも，女児が男児を評価する場合の方がよりネガティブに評価していた．こうした点を考慮すると，男児による女児の人気度と女児による男児の人気度を異性仲間からの人気度として同様に扱うことは適当でないと思われる.

そこで本研究では，幼児の仲間集団における人気度を同性仲間からの人気度と異性仲間からの人気度に区別して，それぞれの人気度と社会的スキルとの関係を男女別に検討する.

方 法

参加者

埼玉県内の保育所，幼稚園に所属する年長幼児 76 名（男児 44 名・女児 32 名）と，担任保育者４名が本研究に参加した.

測度

(1)仲間集団における人気度

ソシオメトリック指名法を幼児との個別面接で実施した．幼児にクラスの仲間全員に関して，保

育所あるいは幼稚園で遊ぶとき，一緒に遊びたい子（肯定的指名）と一緒に遊びたくない子（否定的指名）をそれぞれ無制限で指名してもらった．

否定的指名は実施後の仲間関係に否定的影響を与えるという懸念があるが，実際有害であることを実証した研究は現在まで報告されていない（前田,2001）．ただし，実施にあたっては十分な配慮がなされなければならない．本研究においても，倫理的，道徳的な配慮を可能な限り行った．

(2)社会的スキル

渡邊・岡安・佐藤（1999）によって作成された幼児用社会的スキル尺度を使用した．この尺度は保育者評定尺度であり，幼児の社会的スキルと問題行動を多面的に測定できる評定システムを有している．普段の幼児の行動を担任保育者に5点尺度で評定してもらった．

測度の得点化

(1)仲間集団における人気度

まず幼児ごとに同性仲間からの指名と異性仲間からの指名の場合に分けて，それぞれ肯定的指名数と否定的指名数を集計した．続いて，本人を除くクラスの仲間数でこれを除算し，仲間一人あたりからの指名数を算出した．次に，これを男女別の平均値と標準偏差に基づいて標準得点に変換し，それぞれ肯定的指名得点，否定的指名得点とした．その後，この2つの得点から好意性得点（肯定的指名得点－否定的指名得点）と影響性得点（肯定的指名得点＋否定的指名得点）を算出した．

肯定的指名得点は，仲間から積極的に好かれる程度を表し，否定的指名得点は，仲間から積極的に拒否される程度を表している．また，好意性得点は，好かれる程度と拒否される程度の差を表す．影響性得点は，好かれるか拒否されるかにかかわらず，得点が高いほど仲間への影響力が強く，無視できない存在であることを表す．

(2)社会的スキル

渡邊他（1999）によって作成された幼児用社会的スキル尺度を使用したが，得点化にあたっては，これを再分析している中台・金山（2002）の因子構造に従って，下位尺度得点を算出した．

社会的スキルは，「主張スキル」5項目，「自己統制スキル」4項目，「協調スキル」3項目からなる．問題行動は，「不注意・多動行動」4項目，「引っ込み思案行動」5項目，「攻撃行動」4項目からなる．それぞれの因子を構成する項目の評定値を加算して，下位尺度得点を算出した．いずれの尺度も得点が高いほど，その行動を多く示すことを意味している．

結 果

同性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係

同性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係を検討するために，男女別に相関係数を算出した（Table 1）．ここでは，分析対象者の少なさを考慮して，無相関検定の結果，危険率が10%以下（$p<.10$）のものについてみていくことにする．

男児においては，肯定的指名と主張スキル（$r=.47$），協調スキル（$r=.27$）に正の，引っ込み思案行動($r=-.37$)に負の相関がみられた．また，否定的指名と自己統制スキル($r=-.34$)，協調スキル($r=-.34$)

に負の，不注意・多動行動（r=.28），攻撃行動（r=.26）に正の相関が示された．好意性に関しては，主張スキル(r=.44)，自己統制スキル(r=.34)，協調スキル(r=.40)と正の，不注意・多動行動(r=-.29)，引っ込み思案行動（r=-.28）と負の相関が示された．影響性に関しては，攻撃行動（r=.28）と正の相関が示された．一方，女児に関しては，有意な相関はみられなかった．

Table 1

同性仲間からの人気度と社会的スキルとの相関係数

	男児				女児			
	肯定的指名	否定的指名	好意性	影響性	肯定的指名	否定的指名	好意性	影響性
主張スキル	.47 **	-.20	.44 **	.21	.09	.20	-.07	.23
統制スキル	.19	-.34 *	.34 *	-.12	-.04	-.16	.07	-.16
協調スキル	.27 †	-.34 *	.40 **	-.06	-.18	.17	-.22	-.01
多動	-.15	.28 †	-.29 †	.10	-.02	.01	-.02	-.01
引込み思案	-.37 *	.06	-.28 †	-.24	-.20	-.08	-.08	-.22
攻撃	.10	.26 †	-.11	.28 †	.02	.05	-.03	.06

† p<.10　* p<.05　** p<.01

異性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係

異性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係を検討するために，男女別に相関係数を算出した（Table 2）．その結果，男児において影響性と不注意・多動行動（r=.27）に正の相関がみられた．女児に関しては，肯定的指名と主張スキル(r=.41)に正の，引っ込み思案行動(r=-.31)に負の相関がみられた．また，否定的指名と主張スキル(r=.35)，不注意・多動行動(r=.40)，攻撃行動(r=.40)に正の相関が示された．好意性に関しては，不注意・多動行動(r=-.46)，攻撃行動(r=-.36)と負の相関がみられた．影響性に関しては，主張スキル（r=.51）と正の，引っ込み思案行動(r=-.33)と負の相関が示された．

Table 2

異性仲間からの人気度と社会的スキルとの相関係数

	男児				女児			
	肯定的指名	否定的指名	好意性	影響性	肯定的指名	否定的指名	好意性	影響性
主張スキル	-.19	.12	-.20	-.05	.41 *	.35 †	.05	.51 **
統制スキル	-.02	.03	-.03	.01	.21	-.02	.18	.13
協調スキル	-.17	.03	-.14	-.11	.08	.12	-.03	.14
多動	.16	.19	-.02	.27 †	-.21	.40 *	-.46 **	.13
引込み思案	.15	-.17	.21	-.01	-.31 †	-.18	-.10	-.33 †
攻撃	-.06	.16	-.14	.07	-.08	.40 *	-.36 *	.22

† p<.10　* p<.05　** p<.01

考 察

本研究では，幼児の仲間集団における同性仲間および異性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係を男女別に検討した.まず,同性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係についてみていく．男児では，主張スキル，協調スキルと肯定的指名との間に正の相関が，自己統制スキル，協調スキルと否定的指名との間に負の相関が示された．前者の結果から，自分から仲間との会話を仕掛けたり，仲間の手伝いをしたりする男児は同性仲間から人気があるといえる．後者の結果から，いざこざ場面で感情をコントロールするのが苦手だったり，集団の中で協調的に振る舞えなかったりする男児は同性仲間から拒否されやすいといえる．問題行動に関しては，引っ込み思案行動と肯定的指名との間に負の相関が，不注意・多動行動，攻撃行動と否定的指名との間に正の相関が示された．引っ込み思案な男児は同性仲間から好かれにくく，落ち着きがなかったり，仲間の遊びをじゃましたりする男児は拒否されやすいといえる．一方，女児では同性仲間からの人気度と社会的スキルとの間に関連性は示されなかった．

異性仲間からの人気度と社会的スキルとの関係については，同性仲間からの人気度とは逆の結果が得られた．すなわち，男児では不注意・多動行動と影響性との間に正の相関が示されただけであったのに対して，女児では多くの組み合わせにおいて関連性が示された．主張的な女児は，異性仲間から肯定的指名も否定的指名も共に受けやすく，異性仲間への影響力が強いことがわかった．また，引っ込み思案な女児は，異性仲間から好かれにくいことが示された．さらに，落ち着きがなかったり，仲間の遊びをじゃましたりするなどの問題行動を示す女児は，異性仲間から拒否されやすいといえる．

以上の結果から，社会的スキルの高さは男児では同性仲間からの人気度と，女児では異性仲間からの人気度とそれぞれ関係していることがわかった．この結果を，指名する方の立場から整理してみると，男児では相手の性にかかわらず社会的スキルに優れているかどうかが遊び仲間の選択に影響するのに対して，女児は相手が同性であっても異性であっても男児ほど社会的スキルを選択の基準としていないことが示唆される．

このように，男女において異なる結果が得られた理由としては以下の点が考えられる．幼児が仲間を好む理由は多種多様であること（Hayes,1978）が知られているが，女児は男児よりもこうした多様性に富んでいるのかもしれない．もしそうであるならば，女児の遊び仲間の選択に及ぼす相手の社会的スキルの影響は，相対的に小さなものとなるだろう．あるいは，多様性の程度は男児と変わらなくても，女児の遊び仲間の選択には，社会的スキル以外の要因が男児以上に強く働いていることも考えられる．例えば，Krantz（1987）は，幼児の身体的魅力と仲間集団における人気度との関係を検討し，女児では両者の間に相関がある一方で，男児ではこのような関係はみられないことを明らかにしている．これは，同性仲間からの人気度を扱ったものであるので，異性仲間からの人気度においてもこのような関係が見出されるかどうかは不明である．しかし，女児の遊び仲間の選択には，社会的スキルとは必ずしも関係のない相手の身体的魅力が影響することを示唆している．

子どもの仲間集団における人気度と個人の社会的行動特徴との関係について検討している研究

を展望した Newcomb, Bukowski & Patee (1993) でも明らかなように，同性仲間と異性仲間からの人気度を男児と女児別に報告している研究はほとんどない．そのため，本研究の結果がどの程度普遍性をもつものであるのか検討することは難しい．しかし，本研究の結果は，幼児の仲間集団における人気度と個人の社会的行動特徴との関係を検討する際に性別の影響を考慮する必要があることを示唆している．今後，こうした視点による研究が増加することを期待したい．

最後に，本研究の課題として以下の点を挙げる．第1に，本研究ではソシオメトリック指名を求める段階では性別の限定をせず，分析の段階において，同性仲間からの指名と異性仲間からの指名に分類した．Chimienti (1997) のように指名段階で性別を特化する，すなわち，同性仲間と異性仲間それぞれに対して一定の人数を指名させる方法も考えられる．現時点では，これら2つの方法の違いがどのような結果の相違を生じさせるのか予測はつかないが，より適切な方法を検討するためにも，2つの方法を比較検討する必要があるだろう．

第2の課題は，本研究が幼児の社会的スキルの測定を保育者評定に限定していたことである．前田 (2001) は，幼児の社会的行動特徴に関する仲間，教師，教育実習生それぞれの評価と仲間集団における人気度との関連性を検討し，仲間評価が最も高い関連度を示すことを明らかにしている．今後，社会的スキルの測定に仲間評価や直接的な観察などを用いることで本研究とは異なる結果が得られるかもしれない．

第3に，分析対象者の数が少なかったので，今後はもっと多くの参加者の協力の下，同様の研究を実施する必要がある．

引用文献

Chimienti, G. 1997 Assessing the (in-)consistency of same-sex and opposite-sex peer nominations among Turkish elementary-school children. *Journal of Psychoeducational Assessment*, **15**, 205-213.

Coie, J. D., Dodge, K. A., & Kupersmidt, J. B. 1990 Peer group behavior and social status. In Asher, S. R. & Coie, J. D. (Eds.), *Peer rejection in childhood*. New York: Cambridge University Press. Pp.17-59.

Hayden-Tomson, L., Rubin, K. H., & Hymel. S. 1987 Sex preferences in sociometric choices. *Developmental Psychology*, **23**, 558-562.

Hayes, D. S. 1978 Cognitive bases for liking and disliking among preschool children. *Developmental Psychology*, **49**, 906-909.

Krantz, M. 1987 Physical attractiveness and popularity: A predictive study. *Psychological Reports*, **60**, 723-726.

Li, A. K. F. 1985 Early rejected status and later social adjustment: A 3-year follow up. *Journal of Abnormal Child Psychology*, **13**, 567-577.

前田健一 2001 子どもの仲間関係における社会的地位の持続性 北大路書房.

Mostow, A. J., Izard, C. E., Fine, S., & Trentacosta, C. J. 2002 Modeling emotional, cognitive, and behavioral predictors of peer acceptance. *Child Development*, **73**, 1775-1783.

中台佐喜子・金山元春　2002　幼児の社会的スキルと孤独感　カウンセリング研究（印刷中）.

Newcomb, A. F., Bukowski, W. M. & Patee, L.　1993　Children's peer relations: A meta-analytic review of popular, rejected, neglected, controversial, and average sociometric status. *Psychological Bulletin*, **113**, 99-128.

渡邊朋子・岡安孝弘・佐藤正二　1999　幼児用社会的スキル尺度の標準化に関する研究　日本行動療法学会第 25 回大会発表論文集, 104-105.

謝 辞

本研究にご協力を賜りました保育所,幼稚園の園長先生をはじめ,諸先生方並びに保護者の皆様,幼児の皆様に深く感謝申し上げます．また，本研究を実施するに当たり，ご指導を賜りました立正大学社会福祉学部教授矢澤圭介先生に厚く御礼申し上げます．